

水生植物園みずの森と琵琶湖博物館

報告書

(活動記録)

担当: 1班

【実施日】 2025年7月4日(金) 【天候】 晴れ時々曇り
【集合・利用バス】 JR草津駅より近江鉄道バス 10:30 発 (増便手配料必要)
【参加者数】 65名 【参加費用】 共通券920円のうち、400円個人負担
【行程】 水生植物園みずの森下車——水生植物園見学——徒歩で琵琶湖博物館へ——
博物館別館(昼食・班長会議)——琵琶湖博物館見学——14:59 発バスにて草津駅へ、解散

水生植物園みずの森

水生植物園の園内は手入れが行き届いており、ダリア・蓮等の花々がとても綺麗で、クロード・モネの絵画にちなんだ「花影の池」ではスイレンがちょうど見頃を迎えていました。日本最多のスイレンのコレクションがある「ロータス館」では、スイレンが目の高さに来るように設計されていて、逆さスイレンが撮影できます。皆さん熱心に写真を撮ったり、じっくり眺めたりしていました。烏丸半島は、約13haの蓮の群生地として知られていましたが、2016年に蓮が突然消滅してしまいました。そこで、蓮の見どころをもう一度創出するための取り組みが関係者や専門家、市民の皆さんと協働で行われています。どうかこの努力が実を結びますよう祈らずにはおられません。



水生植物園から琵琶湖博物館へ行く道で観察した植物

- ・ネジバナ ・アカツメグサ ・ギシギシ ・ハルシャギク
- ・ハラオオバコ ・クズ ・ホウキギク・ヒメジョオン ・チガヤ

琵琶湖博物館

琵琶湖博物館では、日本最大級の水生生物の水族展示室が充実しており、見応えがありました。琵琶湖の主「ビワコオオナマズ」や、世界で唯一淡水の湖にすむ「バイカルアザラシ」など珍しい生き物を見る事ができました。また、生き物を見るだけではなく、食文化を伝えたいというコーナーもありました。琵琶湖の魚は食べ物としてもすごく大事で、川魚の料理の紹介が興味深かった。暮らしや歴史、環境など色々なテーマの展示があり、大変勉強になり、時間が足りないほどでした。樹冠トレイルを歩いて琵琶湖や比良山脈を眺めた人もいました。予定していた昼食場所が急に変更になりましたが、皆さんこころよく動いてくださって助かりました。



ビワコオオナマズ

